

みなさんこんにちは。校長の佐久間です。

元気よく校庭で体を動かしたり、読書をするなど、心身ともにリフレッシュする時間にも関わらず全校放送の時間に使わせてもらいました。申し訳なく思います。しかし、これからとても大切なお話しをします。どうか耳だけでなく、目を閉じて心を傾けて聴いてください。

さて、みなさんも報道で知ってのとおり、11月24日（水）愛知県弥富市の中学校で、3年生男子生徒が同学年の生徒に包丁で刺されて死亡したとても痛ましい事件が発生しました。とても心が痛み、他人事とは思えない事件です。なぜそのような事件が起きてしまったのか？そうなる前にできることはなかったのか？その方法以外に選択肢はなかったのか？直接関りが無いのに悔しい気持ちも湧いてきます。

君たちはこの事件をどのように受け止めていますか？

家庭という社会は家族だけの小さな社会。余計な気を遣うことなく安心して過ごせる場所です。しかし学校という社会は家庭よりも大きな社会です。家族以外のたくさんの人と関ることで、楽しいこと、嬉しいことが多くなる。半面、気を遣ったり、悩んだりすることも多くなります。でも、人は人と関わって大きく成長していくんです。「人との出会いから多くの刺激を受け」「人との関りの中から多くのことを学び」「人の考え方に触れて新しい自分を発見し」「自分というものができていく」人は一人では生きられないんです。

人との関りの中で何かに悩んだり、躓いたり、3年生は受験で不安になったり。そんなときは一番頼れる家族がいる。そして友だちや先生たちもいる。人と関わらず、誰にも相談できないことは本当に辛いこと。でも、そんなあなたに気が付いてそっと言葉や手を差し伸べてくれる人は必ずいるんです。君は決して一人じゃない。もし、今現在誰にも言えずに抱えていることがあるならば、いつでも相談してください。あなたが一番信用している人に頼ってください。

ここで、詩人であり書家である「相田みつを」さんの「自分の番 いのちのバトン」を紹介します。

父と母で二人	父と母の両親で四人
そのまた両親で八人	こうしてかぞえてゆくと
十代前で千二十四人	二十代前では・・・？
なんと百万人を超すんです	過去無量のいのちのバトンを受けついで
いまここに自分の番を生きている	それがあなたのいのちです
それがわたしのいのちです	

今のあなたの存在は、多くの命のバトンが渡されてきた結果です。そして、あなたの存在には大きな意味と価値があるんだという意味です。互いが互いを認め、自分自身を大切にしてください。

最後に、命は誰かに奪われたり、自身で絶つものではなく、全力で全うするものなんだということをどうか心に留め置いてください。